付着藻類の競争に与えるオオタニシの影響

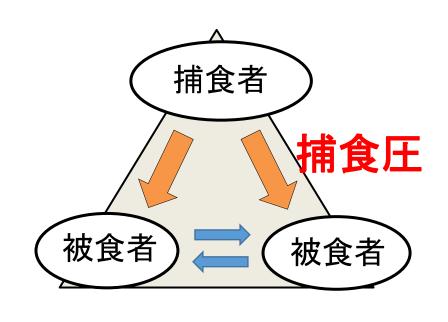
宮城県仙台第三高等学校 01班

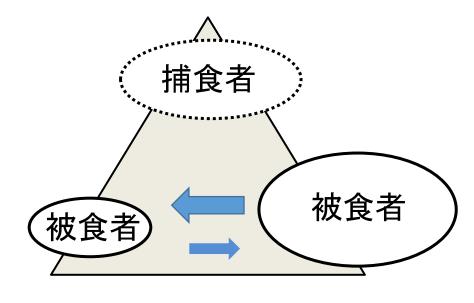
背景

捕食圧によって、被食者の多様性が維持される



水槽中の藻類も、貝の有無で 生き残る種類や量が変わってく るのではないか





珪藻と緑藻の違いとは?

珪藻



- ・茶色い殻
- ・単細胞生物

緑藻

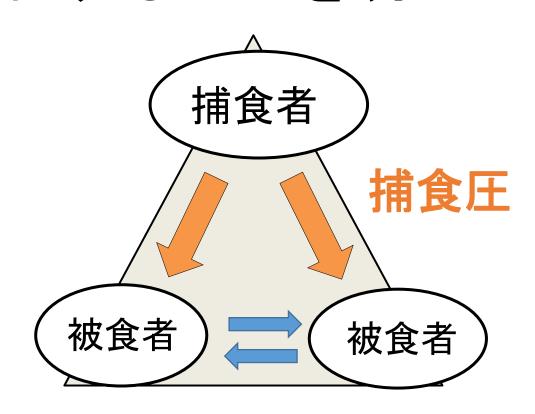


- ・クロロフィル
- 単細胞、多細胞生物

浮遊型と付着型

目的

藻類間の競争が貝(オオタニシ)の捕食圧 によって変化することを明らかにする。



材料

: オオタニシ(Cipangopaludina japonica) ²⁾

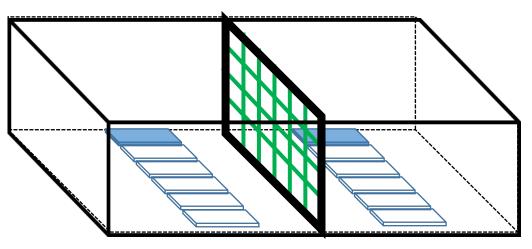
:オオタニシに付着していた緑藻および珪藻



方法

自作の網で水槽を区切る

水槽の底にスライドガラスを並べる1)

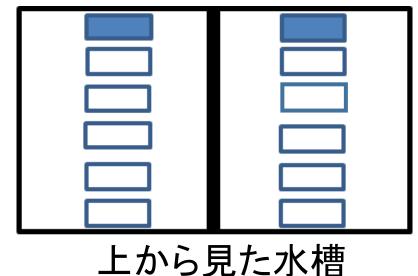


水槽全体図

(水槽の大きさ)

: 29.2cm

横 : 59.6cm 高さ: 22.6cm



方法

水槽の左右両方に5匹ずつ、 野外で採集したオオタニシを投入

3週間後、左側に全てのオオタニシを移動





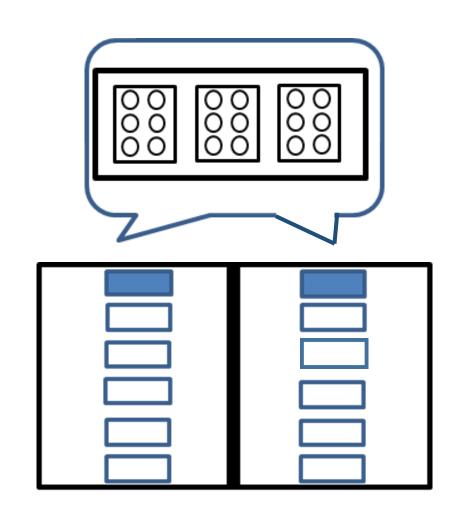


方法

上段から順に左右1枚ずつ スライドガラスを観察

抜けたところは新しいスライドガラスに交換

スライドガラス1枚につき 計18カ所を観察した

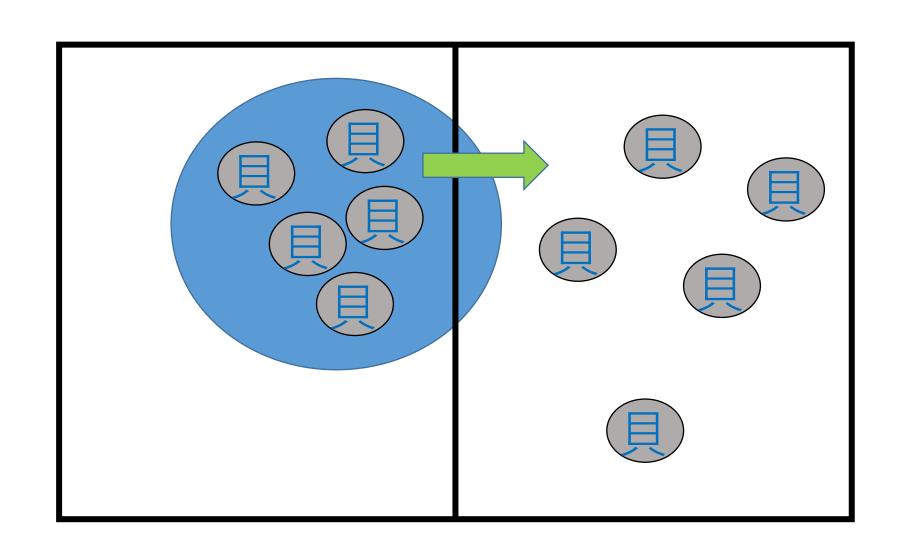


【結果】

1~3週間目は左右のスライドガラスで違いがない。

→藻類が水槽内に均等に撒き散らされ、環境が整ったことが分かった。

3週間が経過したところで貝(オオタニシ)を移動



-1週間後の写真 左側は貝のいる方で、右側が貝のいない方。 明らかに差が出ている。





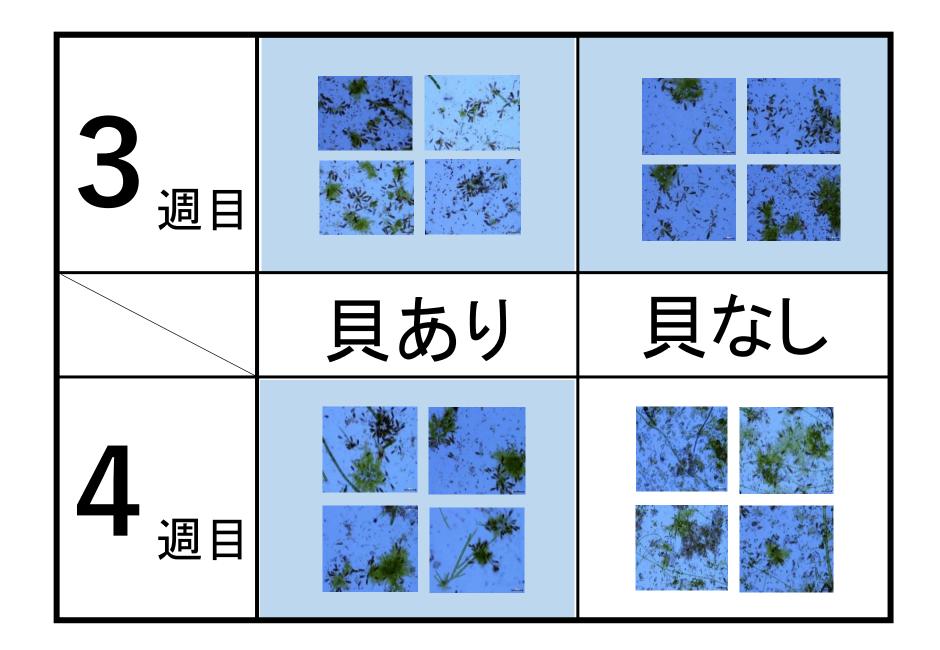
↑貝あり

緑藻→少 珪藻→多



↑貝なし

緑藻→多 珪藻→少



T検定を用いて、左右の差を具体的な数値を使うことによって、証明する。

左右の付着珪藻の数を目視で数える。

数えたデータ

	右	左	T検定
8d	2.1	2.0	p=0.680
15d	14.8	20.2	p=0.398
22d	25.1	35.2	p=0.211
29d	9.6	26.8	p=0.001

T検定では、Pの値が0.005を下回ると有意差があるとみなす。

29日目のT検定の値が0.001であり、0.005を下回っていることから、有意差が生まれたといえる。

29d 9.6 26.8 p=0.001



捕食圧がなくなったことで 付着珪藻の個体数が減った

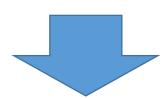
結論

珪藻が壊れている。

- →栄養が足りていない。
- →緑藻との競争に負けてしまった。

しかし

<u>貝が緑藻を食べることで、珪藻が増えた。</u>



藻類間の競争が貝(オオタニシ)の捕食圧 によって変化することを明らかにした。

展望

- ・被食者の種類を限定することで、より正確なデータを出す。
- •捕食圧の関係をより正確な数値で示す。

最終的に、条件を整えてキーストーン種を含んだエコボールを作成する。

参考文献

・付着藻類-浮遊藻類間の栄養塩競合にタニシが与える影響 H17土木学会第60回年次学術講演会 東北大学大学院工学研究科 中澤和典

http://aquakoke.com/snail.type/

ご清聴ありがとうございました